

大川の滝物語

三年二組 寺師 千慧

あの日。僕は「大川の滝」という最高なす
みかき失うことになった。僕は、大川の滝に長
年すんでいる河童である。季節を問わず、観
光客が訪れるは、僕にとってベストな場所だ
った。マイナスイオンを浴びながら日光浴。
すぐ側には、広大な山々。自然のパワーがひ
しひしと伝わってくる。そんな大川の滝から
離れたくなかった。

屋久島町立 中央中学校

1

一年前の夏休み。僕の不注意で人間の写真を
に写りこんでしまった。僕は、一人だっ
たから寂しかったんだ。人間と仲良く、この
大川の滝を永遠に守っていた。よかった。しか
し、この考えは間違っていた。よくラジオで
耳にする「地球温暖化」ってやつは人間が原
因であることを知ってしまった。僕は許せな
かった。この広大な山々を、力強い生命のあ
ふれる自然を壊す人間が。好き放題に技術を
発展させて、自然はどうでもいいのか。こん

な奴らに僕は追いつけられんのだ。無力な自分が悔しかった。

人間は地球温暖化を和らげるために何ができるのか。例えば、電気自動車の使用を義務づけたら、公共機関を利用するなどである。しかし、僕は河童なのだ。無力なのだ。でも、行動することによって道は開けると思う。人と自然がどうやって共存してきたか。この数千年の歴史を伝えたい。僕がもし、河童でなければできたのに。そんな僕でも、大川の滝の素

屋久島町立 中央中学校

晴らしさはわかる。山に降りてきた雨が流れて滝となる。その滝をみて僕も人間もいやされる。自然を守ろうとする人間が動力となり、自然が守られていく。こんなサイクルが生まれるなら、僕は幸せだ。

河童の目線で書いてみた。私自身も、大川の滝にいやさされている一人だ。屋久島に来て三年が経った。この三年で自然のパワーなるものを感じられた。だから、この島にすんで来た人々はものすごく幸せだと思う。しかし、

人間とは不思議な生き物で、
「灯台もと暗し」とい
うように身近なことには
気がつかないものだと私
は思う。人と生き物が共
に生きていくのが屋久島
の良い所だ。それを皆で
分かち合えばきっと、河童
もすむやすすいこの島
を守り続けることができ
るだろう。

近年、雨が降る日が減り、
暑い日が続く。私は大川
の滝の「この島の水がな
くならないのが心配にな
る。でも、平気なのがこ
の島だ。水があるほどに
あって、島中を巡って

屋久島町立 中央中学校

る。その水が目に見える形
となって滝が下流に落ち
る。大川の滝もその一つ。
深い滝のほと、きれいで
透き通った水。それを見
ただけで幸せだと思
う。自分がもし、屋久島
を紹介するならば必ず、
「大川の滝」をおすすめ
するだろう。屋久島にす
んでいる人ももちろん、
屋久島を知らない人たち
にも知ってもらいたい。
わたしにとって大川の滝
はそんな場所だ。

これから、何十年、何百
年と時間がたっても、
ずっと守りたい自然がこ
こにはある。そのた

めに、まずは小さいことを自分からして、こ
うと思う。道に捨られていたゴミを持ち帰っ
てリサイクルする。紙を燃えるごみとして下
はなく、リサイクル資源にする。屋久島の自
然を守るために行っていると思う。そして
私たちの子孫にも、自然との共存というもの
を味わってほしい。私の大好きな大川の滝を、
河童も愛する大川の滝を人間の手で守ってい
きたい。河童が望んでいるだろうことを、私
たちが実現させたい。

屋久島町立 中央中学校